



hida

広報

ひだ

町木



第14号

肥田町
郷づくり委員会
H11. 9. 10発行

農業・農地問題について

(6割以上が基盤整備希望)

郷づくり委員会 土地開発計画事業部

先に実施したアンケート結果によりまず、「農業後継者が居ない」と「居ても多分継がない」とを合わせると全体の7割以上が次の代は農業をする者が居ないとの回答があり、その7割の農家が現在の農地状態では今後農業を縮小するか、又は委託先がなければ手放すしかないとの回答になっている。反面、この様な状態を避ける為には、何らかの基盤整備が必要であるとの回答が全体農家の6割を占めております。この数字を重く受け止め、過日この問題について土地改良区からの説明を受け、議論をしているところです。

今後更に分析・検討を重ね、大切な財産である農地を、手放すことなく守る為にも、肥田町として将来の農業の方向付けを見出し、皆さんと共に真剣に取り組みたいと思っておりますのでご協力をお願いします。

福寿会研修の旅(6月28日)

福寿会会長 元持 正三

恒例となりました研修旅行。当日は、丁度梅雨の谷間で爽やかな初夏の陽射しにも恵まれ、楽しい時間を皆で持ちたいと大勢の方々の参加があり、大型バスも満杯で賑々しく



く出発。今回は岐阜県に足を伸ばして、先ず、かがみがはら航空宇宙博物館を訪ねた。此処は、かつては戦時中の航空基地で色々の資料が納められ、何らかの戦時経験のある私どもには、歴史の爪痕に感じるところも多くありました。また、一方では種々の航空体験の試せる場面もあり、ちよつと若い

気持ちで乗り込んだり、ちよつと賢くなったりの新体験。次いで、東洋健康スポーツランドのレストランシアターでの会食、涙と笑いの人情芝居に拍手、拍手で幕となる。

親睦研修旅行でも感じられる此の健康で明るく仲良く、まだまだ若い老人会。パワーは、我々の郷づくりにも心強い限りである。

福寿会

7月健康ふれあいの集い

(7月15日)

今回の企画は、一つには福寿会会員の方々に広くゲートボールやグランドゴルフで

出会っていただき、より健やかにふれあいの場が広がればとの願いと、一つには高齢の人々には、日本の心の歌の数々をレコードやビデオで観賞していただいて、より元気になって貰おうとの考えである。幸いにしてグラウンドは、梅雨明け間近の暑い陽射し、初体験の人も多く参加され、大変興味深く親しんで頂けた。高齢な人々は公民館での集いでしたが、懐かしい歌や、華やかな画面に大いにご満足の顔、笑顔と元気で楽しい時間になったと思います。横のふれあいを大切にいつも健康で明るい町を願っています。

子ども会活動

「21世紀に向けた子育てキャンペーン」

子ども会会長 薩摩 乃史

今年の夏休みの行事の一つとして「みんなで作るう、わんぱくマップ」を実施しました。これは「21世紀に向けた子育てキャンペーン」の一環として、PTA活動の指導のもと、自分たちの町の構造を知ると同時に「自然とのであい」「人とのであい」を通じて、社会性を学んでいくことの支援のひとつとして取り組みました。



地図の内容は「遊び場」「名所・旧跡・施設」などで、主に子どもたちの自主性を尊重するため、町内の探検から始めました。探検中には、子どもたちの目線で見た町内の様子がど

んどん出てきました。かぶと虫やくわがた虫のいる所や、魚やザリガニのいる所。また、自分の経験した危険な所や、おじいちゃん、おばあちゃん、おとうさん、おかあさんから教えてもらったことが、いろいろ出てきて、とてもすばらしい情報交換の場所になりました。

それから、みんなまで出しあった情報や、新たに発見したことを、公民館に帰って地図にまとめました。1年生から6年生までが、自分の思いのままに、感じたことをイラストにして、地図作りは終わりました。

今回の活動で、今の自然の状態が、21世紀への子どもたちに、少しでも残してあげられたら、どんなにすばらしいか、何十年か先、自分たちが作った地図を見ながら、子どもたちがどんな感想を持つのかは、今の私たちに与えられた課題ではないでしょうか。

入賞おめでとう

本年度、彦根歯科医師会では、犬上郡の小・中学校児童生徒から、歯科保健に関する標語を募集された。標語の部二千六百九十八点の中で、元持直美さん(稲枝中3年)は、一位に入賞されました。(元持正行さん長女)

「めざそうよ

家族全員 きれいな歯」

彦根市青少年育成市民会議募集の中学生作文「私の思い」に山本恵みさん(父・山本長孝氏)が入選されました。

緑風

少年時代の思い出

今から三年ほど前に帰郷した折、父から肥田町史の本を見せられ夢中で読むうちに、自分の育った肥田という地が、万葉の時代から面々と続いている歴史のある土地柄とわかり、改めて先祖への思いや、歴史の中で生きていく自分の存在感というものを実感した次第です。特に、子供の頃に聞いた話が、より具体的に、歴史的な裏付けのもとに説明されており、霧が晴れたように過去の肥田がよみがえるように感じたものでした。

万葉の時代から宇曾川を中心とした風光明媚な所であったという「斐太の細江」は、今の改良された宇曾川では想像もつきませんが、私の少年時代の宇曾川やおおずい川、村の周囲を流れていた川、田んぼの所々にこんなと湧いていた湧水があったことを考えると納得がいきます。

肥田を離れて二十九年になりますが、一番の思い出は川で遊んだことです。当時、出口の川やおおずい川は、今のように改修されておらず、西岸が自然のまま「うどんだ」と呼ばれる木の根っこがはびこっており、探りで魚がつかめた。私は魚つりが大好きで、夏休みになると、毎日川へ出かけ、ハイ、オイカワ、赤ムツ、ガンゾウなどがびく一杯釣れたものです。東町のお地藏さんの裏の宇曾川で泳ぎ始めたのは小学校に入ってからで、頭から飛び込んで川底の石に頭をぶつけ、意識を失いかげながら岸へはいあがった事や、大水のあとの濁流の中を流されながら、向こう岸へ泳ぎ切るのを競ったりした事が、きのうのこのように思い出されます。東京で結婚して三人の子供がいますが、私が経験したような自然とのふれあいは少なく、これから出来るだけ肥田に帰り、子供達にとっても心のふるさとであり続けるよう心がけたいと思っております。

薩摩秀平(東京都調布市在住)

婦人会活動

婦人会会長 吉岡真理子



梅雨の晴れ間の七月十日、婦人会年中行事の一つ、手芸教室として、ガーデンング(コンテナガーデン・寄せ植え)をしました。会員様多数に参加して頂き、肥田町ふれあい広場

にて、JA女性部の協力を得て、八日市市の森園芸店様の御指導のもと、少し暑かったですが、わいわいがやがやと楽しいひとときを過ごせたと思います。家事、育児、仕事にと忙しい日々を過ごし、なかなか花いじりなどやってられない年令層の皆様ですが、これを機会に花に親しめ、少しでもゆとりのある暮らしができれば良いなあと、感想を持ちました。

尚、十月頃に、市の健康推進委員様に「今子供が危ない」(予定)と題して、お話しして頂くと思っています。現在、環境や食べ物に関して、とても心配な状況にあります。是非御参加下さい。

ガンガルークラブ交通安全教室



カンガルークラブ会長

鹿島 葉子

去る6月20日、本年度交通安全教室を行いました。

子供たちは、とても熱心にお話を聞き、質問にも元気に

答えてくれました。親子で歩いた実地訓練でも、左右確認や右側歩行が注意してできました。

「みずほ文化会館」

こけら落としに参加して!

去る5月30日、新設になった「みずほ文化会館」のこけら落としには、数々の催しが開催され、詩吟の部、錦城流では、二十周年大会として発表され、肥田町から筒井和吉氏、ご夫妻、山岸美佐子氏、藤野英子氏の四名が出演、二十五年に亘る練磨を十分発揮されました。



又、成宮伊蔵先生には「書道吟」を披露され、詩吟に合わせ立姿で見事な達筆を発表され、満員の観衆を魅了させられる演出でした。なお、私は華道の部で、初めての体験として

「華道吟」にお誘いを受け、社中六名の方々と共に、大ステージにふさわしい花器を選び、吟詠にあわせて夫々に大華を仕立てあげ、みんなと共に完成を喜びあいました。



ご出演の皆様にご心から感謝申し上げます。
大村 知代

伝承「縄ぬい」への挑戦!

郷づくり伝承事業部



この夏休みには、伝承のあそびとして、割ばしを使っての黒豆つかみ、工夫した紙ひこうき飛ばし、さらにわらを材料に縄ぬいに挑戦しました。とくに縄ぬいは初めての体験でもあり、おじさんの説明や手つきを真剣に見つめながら、子どもなりに器用に約50センチメートルほどの見事な縄を完成しました。

ふるさと夏まつり

八月十五日、本年も自治会役員、他各団体の役員さん方の熱心な企画、熱意の御奉仕により、アトラクション、模擬店等、前年にも勝る運営の元で盛大に開催され、暑い夏の夜を涼しく楽しませて頂きました。御世話頂いた役員の方々、御苦勞様でした。



ご結婚おめでとう

岩尾 孝さん 茜さん(日11・4・30)